

前橋市立前橋高等学校 学校評価一覽表 (令和6年度版)

(別紙様式)

羅 針 盤			方 策	点検・評価		達成度	達成状況のまとめ及び次年度の課題	学校関係者評価	
評価対象	評価項目	具体的数値項目		自己評価	外部アンケート等				総合
I 特色ある学校づくりに努めていますか。	1 特色ある教育活動を行っていますか。	①本校の探究学習プロジェクト「めぶく」に主体的に取り組んだと感じている生徒の割合が75%以上である。	総合的な探究の時間をとおして課題解決の基礎を学び、生徒全員が地域の課題を自分事として考え、解決しようとする機会を設ける。	A	A	A	今年度は「個人→グループ発表→振り返り」という流れを作り、フリーライターが出ないよう改善した。今後は振り返りの一環として、探究での取組みをまとめる時間を設け、自らの成長を実感できるようにしていきたい。	・イチマエの総合探究については個人発表も導入したということにより良いものになってきていると感じた。グローバル教育についても、東京での国内留学体験や、グローバルDAYなどについて、今後も積極的に進めてもらいたい。	
		②「国際理解に関心を持つようになった」と感じている生徒が75%以上である。	1年次のTokyo Global Gateway(国際理解教育)、来年度実施される台湾修学旅行に向けた事前学習、イチマエGlobal Dayなどを通して、様々な場面で異文化に触れる機会を設ける。	A	C	B	今年度実施した1年生のTokyo Global Gateway(TGG)は好評であった。次年度は1年次にTGG(1回目)、Global Day、2年次にTGG(2回目)、台湾修学旅行という連続性を作り、事前事後指導を組み合わせることで効果を高めていきたい。		
		③生徒の75%以上が自分に合った学びができたと感じている。	2年次からクラスを総合コース、文理コース、文系コース、理系コースに分け、生徒の適性に合った学習活動を展開する。	A	B	B	コース選択については、総合系や文理系など、特色のあるコースを設定しており、概ね問題ない。		
II 生徒の意欲的な学習活動について適切な指導をしていますか。	2 生徒の実態に応じた指導を行っていますか。	④学習に対する達成感や満足感をもっている生徒が75%以上である。	習熟度別や少人数制の授業で個に応じた指導を実施し、小テストなどを積極的に取り入れることで生徒自身が学習を振り返ることのできる機会を設ける。	A	B	B	教員の数が足りずに少人数授業が実施できない期間(1学期・国語)もあったが、2学期以降は計画通り実施できた。	・校長のリーダーシップの下で、学力や生徒の活動など随所に成果が見られ、生徒の進路結果に結果として表れている。	
		⑤「授業がわかりやすい」と評価している生徒が75%以上である。	生徒の実態を教員が把握する努力をし、主体的に考え、学び合うことができるテーマを設定し、興味関心を引く授業を展開することで理解を実感させる。	A	B	B	授業アンケートを年2回、全科目で実施した。生徒からの声を授業に反映し、今後も各教員が授業改善に務めていく。		
	3 生徒は確かな学力を身に付けていますか。	⑥「授業をとおして学力が向上した」と評価している生徒が70%以上である。 ⑦進路実現に向け、自らの課題を把握し、学習計画を立て、それを実行している生徒が70%以上である。	「傾聴」「集中」「学び合い」「振り返り」など授業内の生徒の活動を明確にし、メリハリをつけることで、学習に対する達成感を実感させる。 キャリアパスポート等を適切に活用することで進路実現に向けた「見通し」を持たせ、それに基づいた行動を促し、定期的な自らの取り組みの「振り返り」をさせる。	A	B	B	知識の押し付けではなく、活用や振り返りを効果的に入れ、本当の学力向上を目指すことが求められる。そうすることで、生徒が達成感や成長を感じ、学習に目向きになれるようにしていきたい。 今年度はキャリアパスポートのフォーマットを「見直し」→「振り返り」となるよう変更した。これを教員、生徒が活用しやすい仕組みを作っていくことが今後の課題である。		
III 生徒の充実した学校生活について適切な指導をしていますか。	4 組織的・継続的な指導を行っていますか。	⑧いじめ防止対策委員会を年間20回以上開催する。	いじめと疑われる事案の際にはすぐに委員会を招集し、大きな問題につながる前に組織的な対応を行う。また、いじめの報告が3カ月ない場合は、経過観察や未然防止に向けた取り組みのため委員会を開くようにする。	A	B	B	いじめ防止対策委員会については30回以上開くことができた。小委員会としての開催によるものが大半を占めたが、いじめとして認定されないものも認知し、対応策について共通認識をもって取り組むことができた。初期対応は素早く適切に取れた。	・「いじめ防止基本方針」の周知について、教職員の認識と外部アンケート結果に乖離が見られる。生徒や保護者への周知方法について再検討する必要がある。 ・いわゆる「闇バイト」についての問題等、昨今の子どもたちを取り巻く社会的問題について指導を強化してもらいたい。	
		⑨交通事故による頭部損傷を防ぐためにヘルメット着用率が95%以上である。	登下校の事故ハザードマップの提示や街頭指導を実施し、定期的に着用率を把握、事故件数や法律の遵守を生徒へ周知、啓発をしていく。	B	B	B	昨年度に比べると事故数も若干減少しているが重大事故に至ってもおかしくない事故もあった。県内一斉マナーアップの開催が減った分を交通係中心に独自のマナーアップを行った。自宅から学校までのヘルメット着用率を次年度は上げていく工夫をする。		
	5 学校はいじめの防止や早期発見に向けた取組を積極的に行っていますか。	⑩学校は「学校いじめ防止基本方針」について生徒に説明していると認識している生徒が90%以上である。 ⑪生徒がいじめに関する相談を学校にしやすい環境であると評価している生徒が90%以上である。	学校いじめ防止基本方針を生徒と保護者に周知徹底させ、いじめ防止とともに諸問題について早期発見早期対応を心掛け、組織的対応を図る。 週ごとの声掛けや学期ごとの面談を行い、直接相談できなくてもアンケートを定期的実施することで生徒が不安や悩みを学校へ繋げやすい環境を全職員で作る。	A	D	C	いじめ防止基本方針の周知に向け、配信やHP掲載等を行ったが必要性を感じない方も多いため、周知方法に工夫が必要であると感じた。組織対応は、情報共有や記録の徹底など円滑に行うことができていた。 職員全体としては、相談や支援する体制を作っているが生徒側からすると不安を解消できるような安心感を持っていないのが現状のようだ。相談して満足できるような体制を一から見直す。		
6 生徒は健康で、規則正しい学校生活を送っていますか。	⑫学校と家庭の連携の中で、生活習慣の乱れによる欠席や遅刻がないと自覚している生徒が90%以上である。 ⑬ゴミを分別し、学校内の美化を心がけている生徒が80%以上である。	基本的な生活習慣を身につけさせるため、全職員で生活指導に取り組み、規律ある学校生活が送れるようにする。 校内の美化と環境への配慮を意識づけることにより、快適で安全な学習環境を整備する。	D	B	C	・登校時間遵守に課題のある生徒が1割程度いるが、授業規律は確保ができていた。次年度はより家庭と連携して生活習慣改善に取り組んでいく。			
	7 計画的な指導を行っていますか。	⑭学校から提供される進路通信や進路情報、進路資料室の資料などが役立っていると評価している生徒が75%以上である。 ⑮生徒の将来の志望について理解している保護者が75%以上である。	進路通信、進路情報誌、進路資料室等を生徒が主体的に活用する指導を心掛けるとともに、情報提供のツールとして「Google Classroom」や「すぐーる」を効果的に活用する。 家庭での進路についての会話を増やせるよう、保護者参加の進路講演会や進路通信を充実させる。	B	B	B	「すぐーる」を使い校外のイベントについて定期的に情報発信をすることができた。また、進路講演会への保護者参加数も予想以上であった。事後には投影資料をデータ共有し、これらにより生徒保護者の進路意識を少し高めることができたのではないかと。		
IV 生徒の主体的な進路選択について適切な指導をしていますか。	8 生徒は自らの進路について真剣に考え、その実現に向けて取り組んでいますか。	⑯「自己の生き方」と「将来の職業」との関連について考えている生徒が75%以上である。 ⑰1年生で自己の適性を考えてコース選択をできた生徒が80%以上、2年生で進路希望を考えた科目選択をできた生徒が80%以上である。	大学見学会、総合的な探究の時間、インターンシップ、オープンキャンパス等とおし、自己の生き方を考える機会を充実させる。 二者面談をとおし、生徒の希望や適性を把握するとともに、コース選択や科目選択の説明会を実施し、進路意識を高めていく。	B	B	B	夏に実施したインターンシップでは、参加者数が思っていたほど伸びなかった。次年度はより積極的に参加を呼びかけたい。また、どの取組についても、事前事後の指導を充実させることで進路意識を高めていきたい。		
		9 家庭、地域社会に積極的に情報発信をしていますか。	⑱学校のWebページや連絡メールで学校の情報を確認している保護者が80%以上である。 ⑲保護者が来校できる行事が年2回以上実施されていることを認識している保護者が80%以上である。	学校における諸活動の様子や最新の情報をWebページ等に適宜掲載し、家庭や地域のニーズに対応する。 紙による行事案内に加えて「すぐーる」を使って保護者に行事予定を周知し、保護者が参加しやすい環境を整える。	A	A	A	学校行事を遅滞なくWebページで公開してきた。XやInstagramでの公開については、今後さらなる活用の機会を設定していく。 PTA総会実施のタイミングで、年間の「保護者参加可能行事」を配付し、その都度「すぐーる」を使って担当から参加募集を促した。概ね問題なかった。	
V 開かれた学校づくりに努めていますか。	10 ICTを活用した指導を行っていますか。	⑳授業や家庭学習においてChromebookを活用させる教職員の割合が75%以上である。 ㉑ICTを活用した授業や探究学習に満足している生徒が75%以上である。	生徒に貸与されたChromebookやスタディサプリ、ロイロノートなどを活用した授業や探究学習を積極的に実践する。 市から貸与されたChromebookにより高い教育効果が得られるよう、指導方法を工夫する。	A	A	A	スタディサプリの宿題配信を用いて、授業の予習や定期テスト前の復習に活用することができた。また、ロイロノートを用いた小テストの実施やノートの提出を通して、生徒の思考を確認しながらの授業を実践することができた。各サービで教科間における利用率の差があるので、他教科間で実践事例の共有をしていきたい。 今年度からロイロノートを導入したが、多くの先生によって活用されている。導入時の研修も情報部を中心に計画的に実施された。	・保護者に対する学校公開の様子は理解できた。地域社会に対する学校の役割についても検討してもらいたい。 ・ロイロノートの活用など、優れた取組を実践していると理解できた。今後も継続してICT活用を進め、わかりやすい授業、生徒が取り組みたいと思える授業の実践に生かしてもらいたい。	
		11 ICTを活用した業務改善を行っていますか。	㉒学校行事の出欠確認や各種調査への回答および集約が便利になったと感じている生徒・保護者・職員の割合が80%以上である。 ㉓ICTを活用したアンケートに回答している生徒・保護者の割合が90%以上である。	学校行事への参加申込みや各種調査を「すぐーる」やGoogle formsを利用してオンラインで行い、提出および集計作業を軽減する。 アンケート実施のお知らせや回答方法を「すぐーる」やGoogle Classroomで送信し、周知徹底を図る。	A	A	A		主なアンケートはほとんど「すぐーる」によって配信してきた。学校以外の「すぐーる」発信も多いため、保護者が重要な情報を確認しやすいよう工夫する必要がある。
			※各学校で必要に応じて評価対象を加える。						